

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372700924		
法人名	社会福祉法人 蘇清会		
事業所名	グループホーム あいらく		
所在地	熊本県上益城郡山都町滝上223-1		
自己評価作成日	平成30年1月31日	評価結果市町村報告日	平成31年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	平成31年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

阿蘇山を一望できる高台に位置し特別養護老人ホーム蘇望苑の併設施設である。日頃より利用者と一緒に過ごす時間を大切に家庭的な環境を忘れずに安心して生活を送って頂ける様に支援している。食事面では日頃の会話の中から嗜好を聞き取りメニューに取り入れている。日曜日の昼食時は職員も一緒に食事をしてゆっくりと共有の時間を過ごせるようにしている。行事面では併設の施設訪問にも積極的に参加しホーム独自で四季に応じた行事ごとを計画して楽しみが多く出来る様に支援している。安全面においてはスプリンクラー・火災通報装置を設置し共同で訓練を行っている。職員には消防署・防災関連機関からの指導の下、訓練や説明を受けながら災害時にも速やかに行動が出来る様に指導している。医療看護面は常勤の看護師を配置し緊急時の対応や日々の状態の変化にも対応出来る様にしている。また月1回は協力病院からの往診があり、年1回は健康診断を実施し状態の把握に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設15年が過ぎ、入居者の穏やかで安心した様子はこれまでのホームの歴史を感じます。今年度は職員体制も充実し、看護師の常駐や作業療法士の受入れを行うことで、会議や内・外研修への参加等も充実した様子が聞かれる中、職員は従来からの「利用者の目線での」思いを継続したケアが実践されていきました。朝・昼・夕とも手作りの家庭的な食事は入居者皆で食卓を囲み、職員も共に時間を過ごす様子は以前から変わらない風景です。入居者の高齢化やそれぞれに必要な介護が異なる中、ケアに対する家族の満足度も高く、入居者を支える様子がうかがえました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念の唱和を行い職員が共有をするよう努めているが実際のケアに行かされているか確認や反省等振り返りを行っていない。	来訪者にも見やすい場所に掲げられた理念は職員の毎朝の唱和で共有、ケアへの反映に努めているが、具現化や職員間での振り返りを課題と感じている。	職員間で理念の共有は出来ており地域への啓発の取組も見られます。理念とケアの繋がりを職員間で共有し、会議等で振り返りの機会を持たれてはどうかか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設での近隣の学校や諸団体の訪問時には積極的に参加を行っている。地域に向き活動する事は少ないが祭の際は法人枠でスタッフも参加を行っている。	隣接する法人施設では地域からの来訪や催事が行われているため積極的に参加している。一部入居者は帰宅も度々あり、地域行事の見学等も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への啓発活動は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動報告や利用者の状況報告の他、そうめん流しや年末の大掃除等の事業所活動にも協力をしてもらっている。	運営推進会議は全家族へも案内し、活動報告だけでなくホームの日頃の様子を伝えるため入居者と共に過ごす時間も作っている。年末大掃除は毎年恒例となり、地域・家族と共にホームを支える様子が見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回出席を行ってもらい意見を聞いてもらっている。その他でも疑問等がある時には直接連絡を行い解決したり、町担当者からも連絡があり対応して関係作りにも努めている。	普段から電話連絡は互いによく見られる。運営推進会議へも毎回参加があり、ホームや入居者の様子を伝え、また地域や家族との意見交換により相互の情報提供や交流を行い、協力関係の構築を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い身体拘束廃止について学習している。また、法人枠で身体拘束廃止委員会を設置しており定期的に協議を行っている。職員間では報道等で情報がある時にも話題に出して話し合い拘束をしない様に努めている。玄関の施錠は夜間及び深夜帯スタッフが1名になる為防犯面も兼ねて施錠している。	法人の身体拘束廃止委員会にホームからも参加している。委員会の後には全職員での共有を図るため勉強会を行い事例紹介等により学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待御防止についての勉強会を行い周知している。全職員が意識を持ちみんなで注意する事で虐待がない様に努めている。しかし声掛けの際に注意すべき点がみられる事もある。		

グループホームあいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項等の説明は懇切丁寧に行い御家族に不明な点がない様心掛けています。改定時にはその都度通知を行い不明な点があれば何時でも答えられる様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動には些細な事でも目を配り察する心遣いに努めている。御家族の面会の際には日々の暮らしぶりを伝え御家族からも意見を言い易い関係を築くよう努めている。また、運営推進会議にも参加して頂き意見を聞く機会を設けている。	職員は日頃から入居者の言葉やしぐさ等に配慮している。入居者家族の面会もよく見られ、面会時には職員からも声を掛け意見を出しやすい関係作りを行っている。運営推進会議には全家族へ案内し、意見を聞く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期会議を開き職員の意見を聞く機会を設けている。業務別で担当者を決めて会議を行い意見を取り入れ反映させている。また、管理者は業務中でも職員の意見を聞く機会がありその都度話し合いをしている。	毎月1～2回職員会議を行う際には職員からの意見を述べる機会を持っている。日頃管理者もケアに関わっていることから職員は意見を出しやすい環境であり、必要に応じ話し合い等を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員増加にて以前からの労働時間・休日の問題が改善できた。また、看護師・OTR(非常勤)の専門職配置により職員の心理的不安の改善にも繋がっている。今後は職員自体の仕事に対しての向き合い方にも考え向上心が持てる職場作りに務める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて研修委員会を立ち上げており計画的に勉強会が行われているが参加出来ない時が多い。また外部の研修にも参加してもらい学ぶ機会を設けており、OTRには近隣施設へ自主研修に行ってもらい質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上益城部会の連絡会に参加し交流を図っている。また、近隣の同業者とも連絡を取り合いながら質の向上に努めている。しかし地域の各関係機関からなる地域担当者会議が月1回行われているが勤務上都合が付かず参加出来ていない。		

グループホームあいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に本人の要望等を把握する様に努めている。入所後は環境の変化で落ち着かれない事もあるので本人に寄り添い、声掛けを多用しながらこれまでの生活に近い環境作りに心がけている。また本人から要望を言い易い環境作りに努め少しでも不安が軽減するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設見学等で来られた時や契約時には注意点や要望等を尋ねる様にしている。また入所後も面会等に来られた時には職員側から声を掛け不安な事や要望等はないか尋ねながら御家族が言い易い環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	重要事項等を十分に説明した上で本人の生活環境・習慣を把握し状態や要望、御家族の要望に沿ったサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中その人一人ひとりが出来る役割を見つけ職員とお互い協力しながら生活を送る事で良好な相互関係が築けるよう努めている。しかし、時折役割よりも業務優先にて通してしまうこともみられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等に参加をして貰い一緒に過ごす時間を作り共に支援をする機会を作っている。面会に来られた時にもリビングか自室にてゆっくりと過ごして貰い絆を深めて貰っている。解らない事があれば職員側からも相談を行い互いに支えあう関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの希望があれば御家族へ連絡を取り外出の機会を設けたり、職員が付き添い出かけたりにしている。また、馴染みの方が面会に来られた時にはゆっくりと過ごして頂き、併設のデイサービスに来られた時には遊びに行ったりして途切れない支援をしている。	入居者の生活や環境に合わせ、職員同行での外出や友人との面会、また一時帰宅等、それぞれに対応した支援を行っている。家族と過ごす時間や機会も大切にしており、積極的な支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性を職員が把握しながらコミュニケーションを取り、孤立する利用者が出ない様配慮しているが、個々のコミュニケーション能力の違いにより利用者同士の関係作りが出来ておらずスタッフの介入も困難な面がある。		

グループホームあいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了するとほとんどの御家族が関係が途切れる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で会話をしながら本人の希望や意向を把握できるように努めている。会話が困難な方には御家族に意見を聞いている。また本人からの言葉でも表情や態度を観察しながら本心で話されているのか見極める様にしているが十分に意向を汲み取れていない時もある。	職員は日頃の会話やしぐさで入居者の様子から意向の把握を行っている。入居前から管理者は本人や家族へ面談による意向確認を行っており、入居後も面談時の意向の把握や計画見直し時の「生活意向調査表」により確認を行い、計画への反映に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族より今までの生活歴や暮らしぶりを聞き取り、また在宅ケアマネージャーや各関係機関からも情報を提供して頂きながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の訴えを聴いたり、こちらからアプローチをして好まれる事や持っている力の把握に努めたり本人へ寄り添い観察しながら心身の状態の把握に努めている。変化がある時には職員間で話し合ったり、個別記録や申し送りノート・日誌の特記事項に記入をして職員全員が共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族に意見を伺い介護計画を立てている。また、利用者の担当者職員にモニタリング記録を記入してもらい、更新時にはケア会議を開きスタッフからの意見を反映する様に努め介護計画に活かしている。	担当制ではあるが、会議では全職員が全入居者の意見を出し合い情報共有を行っている。モニタリングは担当職員が記録を行い、半年毎に家族への「生活意向調査表」と面談による意向確認で計画見直しを行っている。特に変化がある際には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の記録は生活記録に毎日記録を行い、その他特変事項は業務日誌へ、ケアチェック事項(食事・排便・入浴・睡眠状態等)はケアチェック表へ記入。申し送り事項は、申し送りノートに記入等をして情報の共有に努めている。稀に記入漏れもあり注意が必要な点もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用共同生活介護は指定を受けているが、現在までに利用されたことはない。		

グループホームあいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や御家族・運営推進会議などで意見を貰い地域資源の活用に努めているが運営推進委員や御家族の協力が多く他の地域資源の活用は出来ていない。今後、地元で活動している団体に積極的にアプローチを掛けていくことが重要である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約病院から月1回の定期往診があっており現在の病状や生活の様子などを伝えて適切な医療が受けられる様に支援している。また、往診以外にも状態に変化がある時には病院へ連絡を行い指示や受診を行い健康管理に努めている。	基本的に入居前のかかりつけ医を受診を支援するが、現状、ほとんどが協力医の受診である。協力医及び歯科医からは毎月回診があり、看護師資格を持つ職員が同席し情報を得ている。通院が必要な場合は職員による通院介助を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置しており、日々の利用者の状態の変化に速やかに対応出来ている。また、看護師は介護職も兼務しており他の介護職とも円滑な連携を行って情報共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された時には病院へ情報を提供をして適切な医療が出来る様にしている。入院中も面会に行った時には病院関係者に話を伺い情報を得ている。また、必要時には退院前に院内カンファレンスを行ってもらい退院時にはサマリー提供をもらう等、入院加療中の情報の交換を行ったり、退院後も不明な点があれば病棟へ連絡する等関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に対しての明確な指針は出来ていないが常勤看護師の配置に伴い検討事項となっている。12月～1月副施設長の協力もあり看取りを行う。今後、指針はもとより事業所で出来る事・出来ない事を明確にし御家族へ説明できるようにする。また、緊急対応時の聞き取り等も行い急変時にも対応できるように体制作りを行う事が重要である。	現状終末期に向けた対応は家族からの要望も多く、またこれまでの経験から、検討事項となっている。今年度より看護師が常勤で勤務していることから、今後のホームの対応を体制化しているところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時にはマニュアルに準じて対応をするようにしている。併設の特養にてAEDの講習もあっているが全職員は参加出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の施設と合同して年2回避難訓練を実施している。今年度は独自での訓練が出来なかった。震災については定期会議の際、議題に出して話し合いを行い頭巾の作成等しているが訓練までに至っていない為今後の課題にしたい。	法人全体で協力体制を確認する避難訓練を年2回継続している。熊本地震後、地震対策会議を行ったが、今年度はホーム単独での地震訓練には至らなかったものの、頭巾の作成等備えを行った。	次回の地震時の訓練の時は各自の頭巾を使用した訓練に期待します。いざとなった時誰がどのようにかぶったら良いかどう検証して下さい。

グループホームあいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが意識を持ち個人を尊重した声掛けを行っており、また同性介助にも配慮し対応をしている。しかし時折不適切な声掛けや対応が見られることもあり、今後も研修や勉強会をする機会を設け、より適切な対応が出来るように努めていきたい。	職員一人ひとりが意識を持った対応を行っており、特に排泄時の声かけ等、気になる時には互いに注意し合う体制もある。居室入室時の声かけや、運営推進会議等での資料にはイニシャルを使う等場面毎の配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちや思いを汲みとりながら言葉掛けに注意を払い自己決定が出来るような環境作りが心にかけている。しかし、要求が強い方には希望通り対応できない時もあり不適切な言動も見られ改善する面がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望がある方にはそれに沿った過ごし方を、訴えない方にもその日の体調を考慮した上で尋ねながら、その人に合ったペースで過ごして頂けるように支援している。しかし、職員の都合や考えで利用者の行動を制限することがあり改善する必要がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃の身だしなみは気を付けている。行事の時には化粧やお洒落をして貰っているが以前会議にて化粧をする日を作ったかどうかという意見があったが実現出来ていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員が登板で作っている。日曜の昼食は職員も一緒に食事をして食卓を囲むようにしているが利用者とは別で食べている時が多く、献立も偏りのあるものが出ていることがある。現在は利用者が準備をすることがなく片付けのみを出来る方をお願いしている。	三食ともホームの手作りで家庭的な食事を提供している。現状では介助が必要な入居者が増えてきているが、一緒に食卓を囲み職員も共に時間を過ごしている。片付けには出来る限りではあるもの入居者の関わる姿もある。	食事作りから片付けまで入居者見守りの中行われ、職員による入居者への声掛け等ふだんの様子がかえりました。家庭的な雰囲気である食事時間の提供を継続されることを望みます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員側の観察や利用者からの訴えにて随時食事形態を変更していくよう支援している。食事チェックをケアチェック表上に記載欄を設けており摂取量の把握に努めている。また嚥下の状態に合わせトロミを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。準備のみの支援や義歯の洗浄など、一人ひとりの力に応じて支援している。生活歴により日に1回の方もいれば、体調により食後口腔ケアが出来ない方などおられ、その方にあった口腔ケアの時間を検討する必要もある。		

グループホームあいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して個々の排泄間隔に対応した声掛けをしている。また、利用者からの訴えがある場合には直ぐに対応しその人の行動を見逃さないようにしている。しかし、時には時間が開き過ぎており失敗されている事もあるが自尊心を傷つけないように声掛けをして対応している。	出来るだけ昼間はトイレでの排泄を継続するため、チェック表を利用し個々に合わせた声かけ等を行っている。パットや紙パンツ使用の際には交換時間の目安や個々の対応を会議で共通理解し、個別対応を行っている。職員での検討で紙パンツから布パンツへの移行に向ける取組み例も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事による野菜の摂取や水分補給に努めている。排便が困難な方には主治医の指示の下、下剤を使用したり、看護師に相談をして対応している。下剤の服用も個々の間隔に応じて行い、不具合が出た場合は当日の出勤者で随時話し合い対応している。繊維物の多い食事が出ていないのが現状である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェックをもとに当日の入浴者は決められている。だが、本人の意思や体調により調整しているが利用者から入浴を希望されることはない。身体の清潔を目的としての入浴は行っているが整容や楽しみとしての入浴は出来ていない。	週2～3回を基本とし予定しており、入居者の体調や状態により対応している。入浴出来ない日にも清潔には配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態や状況、本人の希望に応じて環境を変化させている。居室で休まれる時には見守りを怠らず、ホールのソファで休まれている時にはクッションなどを使い気持ちよく休んで頂けるように支援している。また夜間帯は本人に合った光の調節を行い対応している。。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人枠を設け1ヶ所に内服の管理を行っている。服薬は食事時に見守りながら、それぞれ手渡しにて服薬してもらっている。変調のある時は看護師・主治医に対応してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般の作業の手伝い等、日常生活の中で本人が出来る事を見つけ出し役割を持った生活を送って頂ける様に支援している。また、OTRとの共同作業やカラオケ等出来る方には楽しんでもらい、本人の趣味を活かした活動など毎日ではないが楽しみが出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本年度は皆での季節の外出が出来ていない。個別では墓参りや1泊・日帰り帰宅、美容室等への外出等要求に応じて行い、数名でのドライブを行っている。しかしその他の利用者への支援が出来ていない為、希望や想いを汲み取りながらその人に合った外出が出来る様に取り組んでいきたい。	全体的に高齢化し介護度も高くなってきている状況もあり、全員での外出は行事でも難しくなっている。外出が出来る入居者には個々に対応し、家族の協力も得ながら一時帰宅や職員との車での外出等支援を行っている。隣接の法人施設の日々のレクリエーションに参加している入居者もある。	

グループホームあいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所有している方はいるが希望等はない為、買い物に行く機会はある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や知人より掛かってきた時には本人へ取り次ぎ話ができる様に支援している。手紙のやり取りは出来ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光を取り込みながら明かりの調節も利用者に伺い行っている。毎食後掃除を行い、悪臭等しない様に消臭剤を使用して不快な思いをされないように配慮している。リビングの飾り付けはOTRを中心にその季節に応じた飾り付けをしている。テラスにはプランターを設置して季節に応じた花を飾り、廊下には利用者の行事や日々の暮らしの写真を飾っている。	入居者が日中思い思いにゆっくりと過ごす場所となっているリビングは自然の光が注ぎ込み、掃除・片付けも行き届いた心地よい空間である。入居者の日々の様子が見える写真にはコメントが添えられ、来訪者との会話のきっかけにもなっている。作業療法士の関わりによる季節の飾りや、季節を感じる花等、生活を感じる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共通の空間には和室とリビングがある。リビングには、椅子とソファがあり、それぞれが過ごしたい場所で過ごし、時には一緒に会話をされている事もある。和室には炬燵を設置しており自由に出入り出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には使い慣れた物や馴染みの物などを持ってきて頂くようにしており、居室でテレビ観賞をする方も居る。また、面会時の写真を飾ったり記念品や本人が好まれる物を飾ったりしている。面会に来られた時にも一緒に過ごして頂けるようにしている。	入居者の居室はそれぞれの生活の様子が表れている。入居歴が長い入居者は生活の時間を感じるような今までの様子を見ることができ、また入居間もない入居者も家族との関わりを感じる家具や生活用品が持ち込まれ、落ち着いた時間を過ごす様子がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はフラットにて車椅子を自由に自操が出来る。廊下には使用した車椅子を置かない様に利用者の移動を妨げないようにしている。手すりが設置してあり、つたい歩きが出来やすいようにしている。ベッド周りも本人の状態に合わせて、個々に変化をさせている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名グループホームあいらく
作成日 平成 31 年 4 月 10 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		理念の唱和を行い職員間での共有は行っているが振り返りが出来ていない	職員各々が目標を持ち振り返りの場が出来るようにする	① 年度初めの会議にて各職員で基本理念4つの中から目標を持つ ② 6ヶ月毎に振り返りを行う	12ヶ月
2		ホーム独自の災害訓練が行えていない	ホーム独自で災害訓練を行う	① 年間計画に独自での災害訓練を計画 ② 実施後振り返りを行う	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。